

ノートをとおして分析する日本語学習者による講義の談話の理解
 A STUDY ON LISTENING COMPREHENSION
 OF JAPANESE LECTURE DISCOURSE BY L2 LEARNERS
 THROUGH THE ANALYSIS OF LECTURE NOTES

渡辺 文生, 山形大学
 Fumio Watanabe, Yamagata University

1. はじめに

本研究の目的は、学部留学生による講義の談話の聴解において、トピック・センテンスの内容とメタ言語表現に関する記述がノートに書かれているかどうかという点と講義後の理解テストの結果との関連を分析することである。講義の談話の素材には、ラジオの講義を用い、日本語上級クラスの受講生を対象に行った理解調査のデータを用いる。「メタ言語表現に関する情報がノートに書かれている方が、理解テストの得点が高いのではないか」との仮説のもとに調査を行い、その結果を分析する。

2. 研究の背景と課題

談話におけるメタ言語表現に関する先行研究として、西條（1999）が挙げられる。西條（1999）は、メタ言語表現を「談話において、自分あるいは他者の言ったこと、これから言うことに言及する表現」と定義して、その機能を「焦点化」、「総括」など、下の7種10類に分類している。ディベートやシンポジウムの談話の分析や聴解調査の分析などにより、母語話者にとっても学習者にとっても、メタ言語表現は聴解にとって有用だと述べている。

西條（1999）によるメタ言語表現の機能分類

- ①話題の提示 ②-1 他者発話焦点化 ②-2 自己発話焦点化
- ③-1 主張型総括 ③-2 評価型総括 ③-3 前触れ型総括
- ④サブポイント提示 ⑤補正 ⑥表現の検索 ⑦宣言

留学生の講義理解の一助としての、講義におけるメタ言語表現の機能に関する研究としては、中井・寅丸（2010）、李（2014）などがある。これらの研究では、実際の大学講義の構造分析をもとにしたメタ言語表現の分析が行われている。中井・寅丸（2010）は、談話展開におけるメタ言語表現の機能の特徴を分析し、中心文におけるメタ言語表現の出現率が40%弱であったことから、メタ言語表現が中心文の認定に役立つ可能性がある」と指摘している。李（2014）は、話段の区分箇所におけるメタ言語の出現傾向を分析し、話段の区分箇所の71%にメタ言語表現が使用されていることを明らかにしている。

講義の談話におけるトピック・センテンスの理解に関しては、渡辺（2015b）がラジオ講義の談話素材を用いて調査を行った。トピック・センテンスを、「話段に設定された話題に対する叙述をまとめている文」ととらえ、話段の話題（ト

ピック)に関する叙述(コメント)を答えとして要求する形式の筆記タスクの結果を分析した。トピック・センテンスの叙述内容に関するメタ言語表現の位置関係が理解度に影響するのではないかという仮説を立てたが、調査の結果からは、メタ言語表現がトピック・センテンスの叙述内容に先行するか後続するかといった位置関係が、筆記タスクの結果に明確に影響するという結果は得られなかった。

ノートテイキングと講義理解に関する研究としては、小沼・石黒(2007)が挙げられる。小沼・石黒(2007)は、実際の大学講義を用いた理解調査において、ノートに記された講義内容が、どのような形式的特徴のある講義の談話の箇所に由来するのかを分析し、ノートをとる手がかりの一つとしてメタ言語表現を挙げている。渡辺(2016)では、大学講義の録画ビデオを用いて行われた理解調査のデータをもとにトピック・センテンスの理解とメタ言語表現の位置的効果について分析した。その結果、メタ言語表現の位置的効果については、はっきりとした傾向が見られなかったが、母語話者・学習者ともに、ノートにおける記載の有無が、講義後の理解表象に影響を与えていることがわかった。

以上の先行研究をもとに本研究の課題として、「ノートにおけるメタ言語表現に関する情報の記述、および、トピック・センテンスの内容の記述の有無と、理解テストの結果とに関連が見られるか」という問を立てることとする。たとえば、

(1) のようなトピック・センテンスがあったとすると、この文の主題部は、〈評価型総括〉(西條 1999)の機能を持つメタ言語表現であり、叙述部は総括的メタ言語表現「真のテーマ」の内容を伝えているととらえることができる。

(1) このメルヘンの真のテーマは、「動物への変身」にあります。

このようなトピック・センテンスについて、メタ言語表現に関する情報がなんらかの形でノートに書かれているか、そして、トピック・センテンスの叙述内容がノートに書かれているかということが、トピック・センテンスの叙述部の内容を問うような理解テストの結果に影響しているのかどうか、「メタ言語表現に関する情報がノートに書かれている方が、理解テストの得点が高いのではないか」との仮説のもとに分析・考察を行っていく。

3. 調査の概要

本研究の調査の概要は以下のとおりである。被調査者は、日本語上級クラスを受講者 27 名 (N1 合格者 16 名を含む、SPOT A の平均正答率 93.6%・標準偏差 6.7) である。講義素材には、グリム童話に関する NHK カルチャーラジオから抽出した講義の談話を用いた(渡辺 2015a)。調査の手順としては、最初に何についての講義であるか、そして、講義の理解に最低限必要と思われる語彙リストを提示する。その際、質問の筆記タスクを著しく容易にするような語彙は提示しないように配慮した。講義のリスニング中は、後のタスクのためにノートを取るようにと指示した。リスニング後の理解テストは、ノートを参照しながら行われた。本研究では、4 回行った調査それぞれから 1 問ずつ、メタ言語表現が関わるトピック・センテンスの叙述内容を問う質問を分析対象として取り上げる。

調査期間：2017年1月～2月 4回の調査

被調査者：日本語上級クラス受講者（中国語母語話者）27名
（4回目のみ25名）

調査の素材

NHK カルチャーラジオの講義（1回30分のラジオ講義）

『グリム童話の深層をよむ』というラジオ講義のシリーズから、「白雪姫」
および「千枚皮」に関する講義

調査の手順

1. 講義のシリーズ名および理解に必要な語彙リストの提示
2. 講義のリスニング（ラジオ講義から抽出した6～16分の音声素材）
およびノートテイキング
3. 講義の内容に関する理解テストへの解答

4. 結果と考察

4.1 理解テストの得点とノートの記載内容との関連

理解テストの得点とノートの記載内容との関連について、相関係数を表1にまとめた。左の列の数値は、理解テストの得点とメタ言語表現の情報に関するノートの記載との関連についての相関係数で、右の列の数値は、理解テストの得点とトピック・センテンスの叙述内容に関するノートの記載についての相関係数である。下線のある数字は、危険率1%で正の相関が認められる値を示す。

表1 理解テストの得点とノートの記載内容との相関係数

	得点とメタ情報の記載	得点と叙述内容の記載
問1 (n=27)	0.324	0.480
問2 (n=27)	<u>0.783</u>	<u>0.758</u>
問3 (n=27)	<u>0.632</u>	0.221
問4 (n=25)	0.216	<u>0.929</u>

仮説どおりに、ノートにメタ情報が書かれていた方が得点が高いのであれば、左の数値の方が高いということになるが、結果として仮説が当てはまったのは一部にとどまっている。しかし、理解テストの成績1位の被調査者（正解率100%）は、メタ情報の記載に関する得点でも1位（得点率77.8%）であったということ指摘しておく。以下では、それぞれの問について見ていくことにする。

4.2 理解テストの得点とノートとに正の相関が認められなかったケース

問1の内容とその調査方法について説明する。問の内容は「白雪姫」の主要登場人物は誰か? というもので、対応する講義の部分を(2)に示す。ここでは、「3種類の主要登場人物」という、西條(1999)の分類のうちの〈サブポイント提示〉および〈評価型総括〉にあたるメタ言語表現が使われている。以下、講義の談話の用例において、下線部はメタ言語表現を示し、ゴシックの部分は叙述内容を表す部分を示す。また、「,」は継続調のイントネーション、「.」は下降調のイントネーションを示すものとする。

- (2) で一さまざまな版を，検討し，いいところ取りをして編まれたグリム版の「白雪姫」は，読者の心のなかに，忘れがたい深い印象を残します。すでにご存じのように，「白雪姫」には，3種類の主要登場人物が，出てきます。そして，かれらはみな独特な，魅力を発散しています。1人は白雪姫。もう1人は，彼女の母親のお妃，そして3番目は，7人の小人です。

理解テストとノートの評価基準

理解テストの得点：それぞれの人物が正しく書かれているか（2点×3）

メタ情報の記載：「3種類の登場人物」に関する情報の有無（1点）

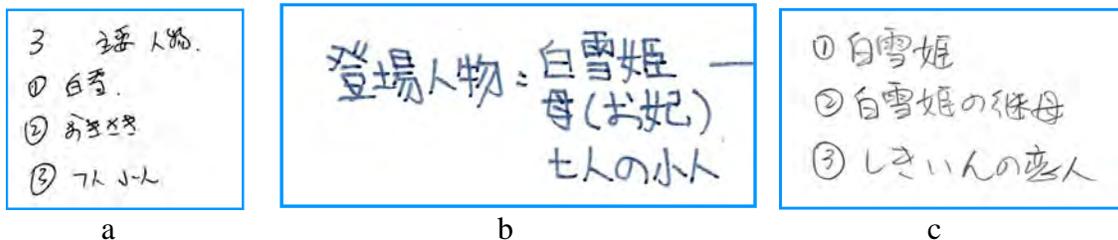
「主要」に関する情報の有無（1点）

それぞれの人物に対する番号付けの有無（1点）

叙述内容の記載：それぞれの人物が正しく書かれているか（2点×3）

理解テストとノートの評価基準は、上に示したとおりである。理解テストとノートにおける叙述内容の記載については、それぞれの人物が正しく書かれているかで評価し、ノートにおけるメタ情報の記載については、「3種類の登場人物」という〈サブポイント提示〉の情報が記されているか、「主要」という〈評価型総括〉の情報が記されているかなどをもとに採点を行った。

図1 問1に関するノートの実例



a
メタ情報の記載：3点
叙述内容の記載：6点

b
メタ情報の記載：1点
叙述内容の記載：6点

c
メタ情報の記載：1点
叙述内容の記載：5点

ノートの実例をもとに、どのように評価を行ったのか説明する。メタ情報の記載に関する評価として、図1aのノートの場合、「3種類の登場人物」についての情報、「主要」についての情報、そして、それぞれの人物について数字がふられているところなどから、満点の3点を与えた。図1bのノートでは「登場人物」という情報のみ、図1cの場合、登場人物に数字がふられただけで、メタ情報の記載についての評価としては1点とした。

以上のようなやり方でノートの記載についての評価を点数化し、理解テストの得点との相関係数を出してみたところ、表2のとおり、得点とメタ情報の記載との相関についても、得点と叙述内容の記載との相関についても、正の相関が認められるほどの結果ではなかった。後者の相関係数については、危険率2%だとかろうじて正の相関が認められる数値ではあるが、高い相関があるとは言えない。

表 2 問 1 の評価結果に関する数値

得点とメタ情報の 記載との相関係数	得点と叙述内容の 記載との相関係数	理解テスト得点の 平均値(100点換算)	理解テスト 得点の標準偏差
0.324	0.480	89.506	14.726

理解テストの得点とノートとに正の相関が認められなかった要因としては、理解テスト得点の平均値や標準偏差からわかるとおり、この問が非常に簡単な問であったことが挙げられる。解答の内容も人物名を列挙するだけなので、ノートに頼らなくても答えることができたから、相関が現れなかったのではないかと推測される。

4.3 理解テストの得点とノートとに正の相関が認められたケース

次に、問 2 の内容とその調査方法について見ていく。問の内容は「千枚皮の話において、大事なことは何か?」というもので、対応する講義の部分を(3)に示す。ここでは、「これが大事なんですね」という、〈評価型総括〉にあたるメタ言語表現が使われている。

- (3) そして前回もお話ししましたが、継母が、まあい、いかに娘をいじめたかとかですね、父親が、娘に求婚するというまあとんでもない話ですが、そういうことをまああんまり考える必要はなくて要するに、あの一、**継母**や、**父親に求婚される、つまり嫌な結婚を強要されること**によって、**まあ主人公が、人生の大ピンチに陥るといこと**。これが大事なんですね、

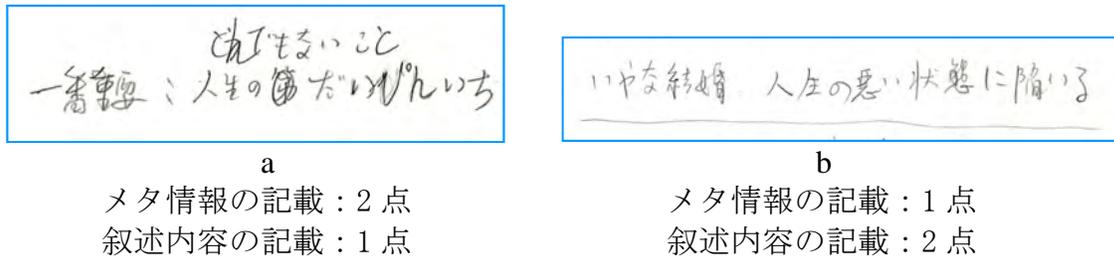
理解テストとノートの評価基準

- 理解テストの得点：「嫌な結婚の強要により」(1点)
「主人公が大ピンチに陥る」(1点)
メタ情報の記載：「大事である」という情報の有無(2点)
叙述内容の記載：「嫌な結婚の強要により」(1点)
「主人公が大ピンチに陥る」(1点)

理解テストとノートの評価基準は、上に示したとおりである。理解テストとノートにおける叙述内容の記載については、それぞれの表現に関する内容が書かれているかどうかで評価し、ノートにおけるメタ情報の記載については、「大事である」という〈評価型総括〉の情報が記されているかをもとに採点を行った。

ノートの実例は図 2 のとおりである。図 2a のノートの場合は、「一番重要」という情報が明示されているので、メタ情報の記載の評価として 2 点を与えたが、叙述内容という点では、「嫌な結婚によって」という原因の記述がないので、そちらの評価は 1 点とした。図 2b のノートの場合は、「大事である」という言語表現による記述はないが、叙述内容に下線を引くということにより、この情報を目立たせているという点で、メタ情報の記載についての評価を 1 点とした。

図2 問2に関するノートの実例



問2に関する評価結果の数値は、表3のようにまとめられる。これを見ると、得点とメタ情報の記載との相関についても、得点と叙述内容の記載との相関についても、正の相関が認められる。どちらも、強い相関を表す高い値であるが、メタ情報の記載との相関係数の方が若干上回っており、仮説を裏付ける結果となっている。

表3 問2の評価結果に関する数値

得点とメタ情報の記載との相関係数	得点と叙述内容の記載との相関係数	理解テスト得点の 平均値(100点換算)	理解テスト 得点の標準偏差
0.783	0.758	16.667	50.635

このような結果となった要因としては、この問が、理解テスト得点の平均値や標準偏差から見て、非常に難しかったということが挙げられる。ノートに叙述内容の記載のない被調査者が27名中16名いたが、ノートに何らかの記載がないと答えることができなかつたと推測される。

4.4 理解テストの得点とメタ情報の記載のみに正の相関が認められたケース

ここでは、問3の内容とその調査方法について見ていく。問の内容は「千枚皮」の話の真のテーマは何か? というもので、対応する講義の部分を(4)に示す。ここでは、「このメルヘンの真のテーマ」という、〈評価型総括〉にあたるメタ言語表現が使われている。理解テストとノートの評価基準は、下に示したとおりである。

- (4) でここに先の問いに対する答があります。姫が、毛むくじゃらになったのは、逃走のためだけではありません。よく見逃されていることなんですけども、このメルヘンの真のテーマは、「動物への変身」にあります。つまり主人公は、じつは自ら、進んで動物に変身するんです。

理解テストとノートの評価基準

- 理解テストの得点：「動物への変身」(2点)
- メタ情報の記載：「真のテーマ」という情報の有無(2点)
- 叙述内容の記載：「動物への変身」(1点)

ノートの実例は図3のとおりである。この問に関して、「真のテーマ」という表現がノートに書かれている例はなかった。図3aのノートの場合は、叙述内容の頭に星印をつけていること、そして、星印はそのノートの中でここにしか使われていないことなどから、メタ情報の記載の評価として2点を与えた。図3bのノートの場合は、叙述内容は書かれているが、下線も印も何もないので、メタ情報の記載についての評価は0点とした。

図3 問3に関するノートの実例

☆動物への変身 ← 主人公自ら	みずから 動物に 変身
a	b
メタ情報の記載：2点	メタ情報の記載：0点
叙述内容の記載：1点	叙述内容の記載：1点

問3に関する評価結果の数値は、表4のようにまとめられる。理解テストの得点とメタ情報の記載との相関についてのみ、正の相関が認められた。逆に、叙述内容の記載との相関は低く、叙述内容がノートに書かれていても正解を答えられなかった被調査者が多かったことを示している。この結果は、仮説を強く裏付ける結果となっている。

得点とメタ情報の記載との相関係数	得点と叙述内容の記載との相関係数	理解テスト得点の 平均値(100点換算)	理解テスト 得点の標準偏差
0.632	0.221	18.519	58.103

このような結果となった要因としては、問2と同様に、この問が難しい問であったということ、そして、叙述内容はほとんどの受講者(27人中22人)のノートに記載があったが、メタ情報の記載は少なかった(27人中6人)ことが挙げられる。なぜ難しかったのかということについては、この問3を含む第3回目の調査は、講義の談話が15分19秒と長い講義であったこと、問で使われた講義の談話の箇所がちょうどその中頃であったことが関わっているのではないかと推測される。

4.5 理解テストの得点と叙述内容の記載のみに正の相関が認められたケース

最後に、問4の内容とその調査方法について見ていく。問の内容は「「嫌な結婚型」のシンデレラ物語に込められた最も深いメッセージとは何か?」というもので、対応する講義の部分を(5)に示す。ここでも、「これがもっとも深いメッセージだ」という、〈評価型総括〉にあたるメタ言語表現が使われている。

- (5) 太陽や月のように輝く自然の美しさには、どのようなドレスの、きらびやかさも、どのような文明の、栄華も、かなうことができません。これが、

「嫌な結婚型」タイプのシンデレラ物語にこめられたもっとも深い、メッセージだと思えます。

文明人である王子はわれわれ現代人の、代弁者です。彼は最初のうち自然の力を知らず、いわゆる、「原始人」を馬鹿にしていました。しかし舞踏会の日、彼は**自然の美しさにまさるものは何もないこと**を知り、「原始人」の、代表者である千枚皮を前にして、シャッポを脱ぎ、**人間は自然に還るべきであること**、**自然の豊かで大きな力に、頼るべきであること**を悟るのです。

理解テストとノートの評価基準

理解テストの得点：「自然の美しさにはどんな文明もかなわない」（2点）

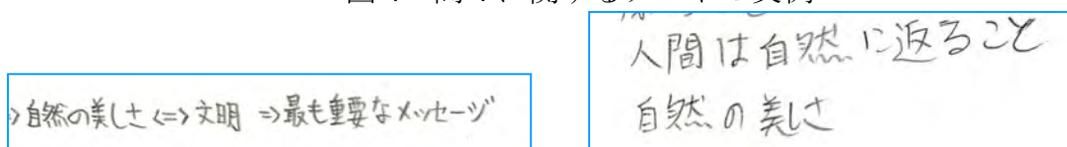
メタ情報の記載：「最も深いメッセージ」という情報の有無（2点）

叙述内容の記載：「自然の美しさにはどんな文明もかなわない」（2点）

理解テストとノートの評価基準は、上に示したとおりであるが、この間に関しては、理解テストおよびノートの叙述内容の記載の評価において、「自然の美しさにはどんな文明もかなわない」という表現のみを正解とするのではなく、同様な内容を表す、「自然の美しさに勝るものは何もない」や「人間は自然に還るべきである」「自然の豊かで大きな力に頼るべきである」などの表現でも正解と評価した。

ノートの実例は図4のとおりである。図4aのノートの場合は、「最も重要なメッセージ」と記されていることから、メタ情報の記載の評価として2点を与えた。図4bのノートの場合は、叙述内容は書かれているが、下線も印もないので、メタ情報の記載についての評価は0点とした。

図4 問4に関するノートの実例



a

メタ情報の記載：2点

叙述内容の記載：2点

b

メタ情報の記載：0点

叙述内容の記載：2点

問4に関する評価結果の数値は、表5のようにまとめられる。問4では、理解テストの得点と叙述内容の記載との相関についてのみ、正の相関が認められた。逆に、メタ情報の記載との相関は低く、メタ情報の記載の有無にかかわらず正解を答えた被調査者が多かったことを示している。

表5 問4の評価結果に関する数値

得点とメタ情報の記載との相関係数	得点と叙述内容の記載との相関係数	理解テスト得点の 平均値(100点換算)	理解テスト 得点の標準偏差
0.216	0.929	70.000	38.188

このような結果となった要因としては、解答のバリエーションがいくつかあるという点で、比較的容易な問であったこと、そして、ほとんどの受講者（25人中21人）のノートに叙述内容記載があったが、メタ情報の記載は少なかった（25人中9人）ことが挙げられる。

5. まとめ

以上、学部留学生による講義の談話の聴解に関して、講義ノートにおけるメタ言語表現に関する情報の記述、および、トピック・センテンスの内容の記述の有無と、理解テストの結果との関連について分析・考察した。考察の結果、1) メタ言語表現に関する情報の記述と理解テストの結果との相関は、問の難易度によって影響を受けること、2) 難易度の高い問においては、メタ言語表現に関する情報がノートに記載されているかどうか、トピック・センテンスの叙述内容の記載の有無よりも高い相関を示すこと、がわかった。

「メタ言語表現に関する情報がノートに書かれている方が、理解テストの得点が高いのではないか」との仮説のもとに調査・分析を行ったが、仮説に沿う傾向がすべての問の結果には見られなかった。しかし、難易度の高い問においてこの仮説に沿った傾向が現れたことは、聴解指導やノートテイキングの指導において、メタ言語表現に着目した指導の有効性を示すものととらえられる。今後の課題としては、さらに分析データを蓄積して、メタ言語表現を手掛かりとした聴解指導への具体的な応用方法を検討していくことが挙げられる。

この研究は、平成27年度～29年度科学研究費基盤研究（C）「学部留学生の講義聴解力を伸ばすための談話表現の研究」（課題番号：15K02629 研究代表者：渡辺文生）の成果の一部である。

参考文献

- 西條美紀（1999）『談話におけるメタ言語の役割』風間書房
- 小沼喜好・石黒圭（2007）「受講ノートANにおける講義Aの原話の理解」西條美紀（2007）『学際的アプローチによる大学生の講義理解能力育成のためのカリキュラム開発』（平成16～18年度科学研究費補助金研究成果報告書 基盤研究（C））218-225
- 中井陽子・寅丸真澄（2010）「講義の談話のメタ言語表現」佐久間まゆみ（編著）『講義の談話の表現と理解』153-168 くろしお出版
- 李婷（2014）「講義の談話におけるメタ言語表現の働き」石黒圭（編）『「大学学部留学生のための講義の談話に関する研究」論文集』44-59
- 渡辺文生（2015a）「論説的な文章・談話における文末表現の使われ方について」阿部二郎・庵功雄・佐藤琢三（編）『文章・談話研究と日本語教育の接点』179-199 くろしお出版
- 渡辺文生（2015b）「講義の談話におけるトピック・センテンスの聴解について」『2015 CAJLE Annual Conference Proceedings』358-367 カナダ日本語教育振興会

渡辺文生 (2016) 「講義の談話においてトピック・センテンス内のメタ言語表現の位置が受講者の理解に与える影響について」『2016 CAJLE Annual Conference Proceedings』 286-292 カナダ日本語教育振興会